



©Giorgio Montersino



©ChrisGoldNY



©Singapore 2010 Youth Olympic Games



©Rod Waddington

スポーツ・武術のグローバル化 講演会

スポーツを通じた社会的包摂


——ムスリム女性を対象にして

2023年 **6/13** 火 9:00~10:30

会場 | 草薙キャンパス 3315教室 (Zoom併用)

対象 | 静岡県立大学学生・教職員

Zoom参加の場合は事前登録が必要です。
 詳しくは以下をご覧ください。
<https://bit.ly/0613sports>



スポーツは、心身の健康とともに、喜び・自律・幸福といった「人権」の条件と不可分に結びつく活動である。だからこそ、スポーツへの参加は社会的包摂の重要な一部と考えられている。現在、「スポーツを通じた包摂」の対象として政治的アジェンダに置かれているのが、ムスリム女性である。イスラームと女性のスポーツ参加との関係は、アンビバレントなものである。一方で、イスラームにおいて、スポーツや身体活動は、女性も含め推奨される行為とされている。だが、他方で、現実には、ムスリム女性のスポーツ参加の割合は低く留まっている。では、その理由は何であり、また彼女たちの包摂には何が必要だろうか。本講演では、ムスリム女性のスポーツ参加をめぐる現状、スポーツを通じた国際的な環境変化、ムスリム女性のスポーツ参加を妨げる多様な要因について議論することで、信仰、ジェンダー、スポーツの間にある複雑な関係について紐解いていく。その上で、社会的包摂の多様な形について検討する。

あだち さとし
安達 智史

京都府出身。専門は、理論社会学、政治哲学、宗教とジェンダー。研究テーマは、ヨーロッパの社会統合研究、ムスリム女性のジェンダー意識と信仰をめぐる国際比較研究。近年、スポーツと宗教の関係を、イスラーム、女性のエージェンシー、ポスト世俗化をテーマに探究している。主な著書に、『リベラル・ナショナリズムと多文化主義』（勁草書房、2013年）、『再帰的近代のアイデンティティ論』（晃洋書房、2020年）、*Muslim and British post-9/11*（Trans Pacific Press、2023年）。受賞歴として、日本社会学会奨励賞（論文の部、2011年）、同奨励賞（著書の部、2021年）など。



主催 静岡県立大学国際関係学部 共催 静岡県立大学 グローバル・スタディーズ研究センター
 *2023年度学部研究推進費「スポーツ・武術のグローバル化と社会的影響に関する領域横断的研究」（共同研究者：坂巻静佳・孫暁剛・富澤かな・奈倉京子）の助成を受けて開催
 問い合わせ先 富澤かな (t-kana@u-shizuoka-ken.ac.jp)